



一般社団法人日本スーパーマーケット協会

平成29年1月 マンスリー レポート

集計企業数 **55** 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	56,104,380 万円	100.0%	102.0% (102.2%)	53,744,291 万円	100.4% (100.6%)
食 料 品	47,324,772 万円	84.3% (84.3%)	102.7% (103.0%)	45,704,081 万円	100.9% (101.3%)
農 産	7,178,428 万円	12.8% (12.3%)	107.0% (109.7%)	6,937,300 万円	105.0% (107.9%)
水 産	4,677,298 万円	8.3% (8.9%)	99.2% (98.7%)	4,515,469 万円	97.4% (97.2%)
畜 産	6,181,591 万円	11.0% (10.6%)	102.4% (102.7%)	5,952,151 万円	100.2% (100.7%)
惣 菜	5,497,673 万円	9.8% (9.7%)	103.5% (102.8%)	5,286,235 万円	101.3% (100.7%)
日配食品	10,436,712 万円	18.6% (18.2%)	101.8% (102.6%)	10,091,841 万円	100.1% (101.0%)
加工食品	13,353,069 万円	23.8% (24.6%)	102.3% (101.9%)	12,921,085 万円	100.7% (100.5%)
生活関連	3,576,054 万円	6.4% (6.6%)	100.2% (98.3%)	3,470,536 万円	99.7% (97.9%)
衣 料 品	1,747,797 万円	3.1% (2.9%)	95.9% (95.7%)	1,642,829 万円	96.9% (95.6%)
そ の 他	3,455,757 万円	6.2% (6.2%)	98.3% (98.7%)	2,926,845 万円	96.3% (96.8%)

② 数 値

全店総売上高	56,104,380 万円	店 舗 数	4,666 店舗
総売場面積	9,259,674.3 m ²	総従業員数	261,350 人

店舗平均月商	12,024.1 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,001.3 円 (97.4%)
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円 (7.1 万円)	平均店舗面積	1,984.5 m ²
月間坪売上(前月)	20.0 万円 (23.5 万円)	パート比率(前月)	78.7% (78.4%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 1月の天候環境は、月の平均気温が北日本では平年並み、東・西日本では高くなった。ただし、月内での気温の変動幅は大きく、上旬は暖かかったが、中旬から下旬にかけては気温が低下した。また、東北から山陰の日本海側や西日本を中心に大雪となった所があった
- ・ 生鮮品の相場状況について、野菜は月前半に高値が続いたが、月後半には落ち着きがみられた。果物はみかんなどのかんきつ類で前年を下回る価格となっている。畜産は、和牛が引き続き高値で推移

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は全般的に好調であった。白菜、キャベツなどの大型野菜が相場高による単価増につながったほか、価格が下がった品については買上点数の改善がみられた
- ・ 気温の低下に合わせて鍋物材料の動きが良かった
- ・ 果実は、販売しやすい価格であった、みかんなどの国産かんきつ類が売上を伸ばした一方、単価が高かったりんごが不調とするコメントが多かった。いちごは、好不調が分かれる結果であった

○ 水産

- ・ 盛り合わせ、まぐろなどの刺身が好調であった一方、生魚は不漁による入荷不足の影響により不調であった
- ・ 前月のノロウイルス検出による影響により、生カキは不調が続いている
- ・ ぶりの販売強化に取り組んでいる事例が多かったが、好不調が分かれる結果となっている

○ 畜産

- ・ 牛肉が概ね好調であった。相場高が続く和牛は伸び悩みをみせたが、焼肉、ステーキなどの焼きメニュー用途が売上を伸ばした
- ・ 豚肉、鶏肉は気温環境により鍋材料の需要が拡大したものの、全体では好不調が分かれる結果となっている
- ・ 加工肉は引き続き不調とするコメントが多かった

○ 惣菜

- ・ 寿司が売上を伸ばした。年始における、にぎり寿司の需要拡大も寄与した
- ・ 弁当、丼などの米飯が好調であったほか、温麺、おでんなどのホットメニューが順調な動向を示した

○ 日配・加工食品

- ・ インフルエンザ対策で機能性ヨーグルトが引き続き好調とのコメントが多かった一方、昨年異常値だった反動により、昨年を下回ったとのコメントもみられた
- ・ 野菜相場高の影響により漬物が引き続き売上を伸ばしたほか、新商品の効果もありアイスクリームが好調であった
- ・ 甘酒が売上を伸ばしている。以前からのブームに加えて、メディアで再度紹介されたことが要因。一方で商品の供給不足があったとのコメントも一部でみられた
- ・ 気温環境により、鍋つゆ、シチュー、スープなどホットメニュー材料が売上を伸ばした
- ・ その他では、米が好調を維持している

「年始、受験生応援マーケット」の状況について

- ・ 年始の営業開始日は、元旦から営業している企業が多くなっている。一方で、営業時間の短縮や休日を増やしたケースも見受けられた
- ・ 年始は、刺身やにぎり寿司などのご馳走メニューの販売が好調であった一方、連休期間が短かったことから、通常商品が早めに動き出した
- ・ 成人のお祝いマーケットは縮小傾向である中、オードブルやローストビーフなどの取り組みで成功している事例がみられた
- ・ 受験生応援マーケットは、カップ麺、丼の素などの即席・レトルト商品を中心に夜食メニュー提案で成功している事例がみられたほか、応援パッケージの菓子の展開の事例が多かった

以 上